

お話し伺いメモ 2003

「あの突然の揺れとすべてを覆した自然の猛威は、8年目を迎えた今でも一瞬も忘れられず、むしろ新しい色合いと発見を日々生み出しているその被災地に、人々の声に耳を傾け、自らに新しい学びを課せる週末ボランティアのお話し伺い訪問メモをご覧ください。共に未来を見つめるために。」

週末ボランティアの被災者宅へのお話し伺い訪問は、2001年4月からは第2、第4の土曜日に行われることとなりました。

プライバシー保護のため、内容には一部修正を入れていきますことをご了解ください。

1月11日

(メモ作成せず)

1月25日

(メモ作成せず)

2月8日

(メモ作成せず)

2月22日

(メモ作成せず)

3月8日

・50代男性、一人暮らし。垂水区で被災、車椅子でローソンに行ったり、週2回、コープで食料などを買ってくる。被災者ではなく障害者として入居。以前は、多聞に住んでおられ、2年前に入居、抽選で6回申し込んでやっと当たった。部屋の移動は四つんばい、室内の手すりで移動しやすい。よく、多聞のデイサービスを利用している。そこは、200人くらいいる大きな施設で、バス(リフト付き)で迎えにきてくれる。須磨パティオまで行くにも距離がある。車椅子でインターチェンジそばのミドリ電化にも行くが、下り坂が多く、地形を見て車椅子等を操作しなければならないなど、苦勞が多い、「仕事していたらともかく、じっとしているとなかなか腹が空かない」と、当日は食事をされていなかった。10年前くらいから、公団住宅の3階で一人暮らし。3階だとエレベーターがなく、1年くらい外出できず、ヘルパーが見るに見かねて、外出できたとのこと。電動車椅子を神戸市から支給されていたが、公団では使い物にならなかった。今では格段に外出がしやすくなった。今は、ローソンまででも外出することができるようになった。以前は、トラックの運転手をしており、野菜や魚を10tの冷凍車で運んでいた。月3回くらいしか神戸に帰れず、月7000～8000km走る毎日だったとのこと。一人も案外気楽でいい、自分が腹減ったら飯を食ったらいいし、朝風呂にも入ったりする。子どもらに聞かれると「昔はトラックの運転手、今は車椅子の運転手」と答えるようにしている。(長船、井上、林、増田)

・70代女性。淡路の出身、昔は港町だったが、橋ができてすっかり変わってしまった。3年前ここに引っ越してきた。それまでは西神の仮設住宅だった。世間話をする事も少なくなり、人の世話をすることあいさつすることなどが、仮設住宅よりも少なり寂しくなった。「ここはマンションではない死に場所や」とおっしゃる。春がきたらゴミが増えた。掃除するのも自分ばかりだが、通りがかる人から、「毎日掃除たいへんですね」と言われ、嬉しくなったことも。また、ゴミを散らかす子どもに注意したら逆ギレされた。善意で注意しても、けしかけられるかもしれないから言わない。正月もこの住宅で過ごした。夏は、うちわと自然の風で過ごすようにしている。案外涼しい、虫やムカデがよく来る。クモ膜下出血で身体を悪くし、血圧の薬を飲みつづけないと血圧が上がってくる。(長船、井上、林、増田)

・50代女性、長田区で被災、自宅は全壊。命が助かっただけでも幸い、家族4人は無事、その年の8月まで、兵庫高校に避難し、それから、長田区役所に避難していた。仮設には入りたかったけど、入れなかった。商売にならないので民間の部屋を借りた。震災の時は、猫の手も借りたかったが、落ち着いたのはここ2、3年くらい。ここは、障害をもった人が多いので交流は少ないが、本人は、心配することはないというくらいお元気であった。(北山、佐藤、木下、西田)

・70代。兵庫区の大倉山の上の方で被災、あの辺は古い家が多かったとのこと。1週間くらいは、つぶれた家にいた。家は全壊したが仮設には入らなかった。ここへきて2年しか経っていないが、足腰が悪く、買い物が不便である。現在は、習字をやっていて生きがいがあり、特別に心配することもないとのこと、お元気そうで安心した。(北山、佐藤、木下、西田)

・80代女性、世話をしている息子さんが応対、ご主人とは死別しているとのこと。今は、24時間寝たきりでヘルパーさんを頼まれている。被災時は緑内障を患っており、地震の後遺症で、地震が起こる不安に襲われている。入浴を3人1組で行っているが、本人は眼が見えず、昼夜の区別がつかない。以前は35kgだったが歯が抜けてしまい、ここ5年くらいは、チーズケーキしか食べていないので、25kgになってしまった。去年の秋頃から薬をあまりるほどもらっている。ヘルパーの顔は覚えているが、初対面の人には説明しなくてははいけない。以前は、加古川の養老院で、しばらく寝かされていたが、養老院から出たいと自宅へ。夜は、2～3時間ごとに起きたり寝たり、会話も耳元で交わすしかない。買い物は、週1回のまとめ買い。病気をしたら手術ができないのでクレーンは入れられない。食べ物を食べていないので、食べ物を食べる夢をよく見るらしい。(坂本、猪上、籠嶋、豊田)

・50代、長田区で被災、仮設で5年を過ごされる。現在、母親の世話をされている。ここに入られたのは、平成11年、長田の土地は売ってしまった。介護保険ができて大分便利になりました。寝たきりの母親がいるのになかなかここに当たらずにつらかった。家賃は免除してもらっており、母の遺族年金で2人で何とか食べている状態。ヘルパーは週3回、12～4時まで来てもらっている。環境が変わってしまったが、ここは、バリアフリーの設計となっており便利。1号棟と2号棟の方は、年がとっているのにスーパーなどの買い物がたいへんである。この階は、近所付き合いがまだ残っているので、うまくやっていけている。(坂本、猪上、籠嶋、豊田)

・60代男性。耳が不自由になり、コックをされていたが転職、福祉施設に勤めておられたが、退職、辞めて1年間、ケーブルテレビの放送を楽しんでいる。震災前に奥さまが亡くなり、耳が遠くなり、自分に自信がなくなってきた。しかし、自分の障害のことは、なかなか他人に伝わりにくいのではないかと思います、集会等に出る気もしない。扉に落書きをされたりしてつらい

思いをされている。(坂本、猪上、籠嶋、豊田)

・70代女性。長田区で被災。西神の仮設住宅に住んだあと、ここに移ってきてから病気がちになっていた。ご主人とは年金暮らし、働くところがないと国民年金がないので心細い。ご主人も大分前に脳梗塞を患った。買い物に行くのもたいへんである。(坂本、猪上、籠嶋、豊田)

・30代女性。この棟は障害者専用である。長男が知的障害で、入居できるきっかけとなった。現在は歩行することが難しい。駐車場がこの棟は上にあり、車を使うのにも不便である。(坂本、猪上、籠嶋、豊田)

3月22日

・50代男性、震災前から一人暮らし。中央区の借家で被災。内部障害＋神経系の症状で2級の障害者。35歳の時には土方をやっていた。母親（震災後肺炎で2ヶ月入院したが、今は元気）が週1回訪ねてきてくれる。1日3回毎食後の精神安定剤と睡眠導入剤の服用で症状は安定しているが、調子がおかしくなるといけないのでお酒は飲まない。週2～3日半日程度、作業療法のため授産施設に通って軽作業をする。人付き合いにも慣れ、職員に生活の相談に乗ってもらっている。生活保護を受けており、家賃は天引きされ、医療費はかからない。一方、貯金や保険加入は認められず、10万円程度の現金の手持ちしかできない。「話を聞いてもらえるのが嬉しい」と言ってくださった。(水野、華山、籠嶋)

・50代男性、一人暮らし。20歳の時から糖尿病を患う。心臓の持病もあり、血圧の変化がたいへん。週3回人工透析に通っており、透析が3日あくと何もやる気がしなくなる。医療費は年間60万円かかっている。仕事もできないので生活保護を受けている。ヘルパーにきてもらったり、病院への送迎をしてもらっている。シルバーシートに座っていると白い目で見られるので、内部障害者はつらい。万一骨折したら車椅子の生活にならざるを得ず、そうなったらもう生きていたくない。少年時代に、来日したビートルズの公演を見ようと東京まで無賃乗車して捕まったこと、アイドルの追っかけもしたこと、糖尿病を患う芸能人や、携帯電話の「出会い系サイト」の問題など、話がつきなかった。「ボランティアとして何もできないが」と言うのと「話を聞いてもらえるのが嬉しい」とおっしゃった。何度もお話ししたいと思った。(水野、華山、籠嶋)

・70代男性、奥さんと2人暮らし。息子・娘さんが近くに在住。長く神戸に住んでいて、阪神水害、戦災、震災の3つに遭う。震災時は鷹取駅北側、旧市電通東側に在住。出火したのが線路南側と広い通りの西側だったので、延焼しないと思って安心して、娘さん宅に避難していたら、その間に全焼。何も持ち出せなかった。明石市の息子さん宅に移ったが、神戸に住みたいと思い、須磨区内のマンションに移る。何度も落選したあとここに入居。現役で働いていた時から心臓疾患があり、西市民病院に入院したこともある。25年間国立神戸病院に通院、手術も。歯は入れ歯で、食べた気がしない。若かった頃に戻りたいとのこと。現在住んでいる部屋は南向きで、ベランダがあり、西日がささない方角に位置するのでいい。高い階でないので、吹き込む風は強すぎず暖かい。(原、坂本)

・20代？女性。腰が悪くて立ってられない。あと2～3日で入院予定で、「またお世話になります」とのこと。(増田、佐沢、長船)

・70代？男性。震災時は兵庫区在住、自宅は全焼。すぐに燃えてしまい、中のものは取り出せず。湊川高校での避難所生活を経て西神中央公園の仮設へ。兵庫区の復興住宅に入りたかった

が入れずにここへ。今の生活は慣れていないけれど仕方がない。何もすることがないから、兵庫へ行ってブラブラするばかりだが、それも遠くてつらい。(増田、佐沢、長船)

・80代女性。長田区で被災。自宅はすぐに屋根が落ちて全壊、隣の人に壁を破って引っ張り出してもらい、靴下1枚、着の身着のままで逃げた。さらに一番に全焼してしまったため、何も持ち出せず。葬式代にとおいてあった現金も燃えてしまった。市からもらえたお金で助かった。地震の翌日、避難所にストーブが入り、ほっとした。息子さんがいる高松へ、ご主人とともに行ったが、そこでまもなくご主人が倒れ、亡くなった。その後気兼ねして、高松を出て神戸へ戻り、垂水区内の仮設へ。近所の人も焼け出された者同士なので仲良くやれて、おりやすいところだった。3年ほどいたあとの復興住宅へ。55年間住み、子育てをして、なじんだ長田にいた時とは勝手が違う。あのとき死んでいたらと思ったこともある。今月長男を亡くした。糖尿病、腰痛に加え、血圧も高くなり、眼も悪くなってきている。両親が若くして亡くなっており、自分も糖尿病を患っているので、88歳まで生きられるとは思わなかった。体調の悪い時は幅が狭い電動ベッドでは寝づらく、畳の上で寝たり、何日も入浴できないこともある。週2回ヘルパーにきてもらっている。前は通院していたが、今は往診してもらっている。寝たきりにならないように運動がてら動いたりするが、今はじっとしている。植木をもってきたが、植え替えができず、また西日のため、かなり枯らしてしまった。腰痛のつらさに加え、11階は降りるのがしんどい。買い物に出られた時は幸せだった。イラク戦争は迷惑やなあ。第2次大戦の時は兄弟が兵隊に行っていた。あの頃はムチャやった。姫路に目の神様が祀られているので、花見はそこでしたい。「ここへ来た時はシャンとしていたが、今は腰も曲がってロクなことあらへん。でもいい人に助けてもらって元気に生きている」とだけは書いておいてほしいとのこと。(増田、佐沢、長船)

4月12日

・50代後半女性。須磨区で被災。中学校に避難、西神の仮設住宅に5年住んでいた。震災がなかったらな、と思う。旦那(60代後半)は心臓が悪く、C型肝炎も患っている。ここでの生活の不満は、買い物が不便だということ。(華山、籠嶋)

・70代男性。兵庫区で被災。若い時から、結核など、身体が悪かったが、ここに来てから、68歳の時に心臓が悪くなった。病院は、鷹取まで出かけている。ヘルパーさんに週2回、来てもらっている。買い物が不便だと感じる。野球は「楽しみ」だ。(華山、籠嶋)

・70代男性。兵庫区で被災、半壊。今は更地になっている。お姉さんが三木に住んでいて通った。ストレスで胃が焼けて、吐いた。今は、この住宅の庭園の手入れをしている。ゴミのポイ捨てが多いこと、犬のフンの始末をしないことなど、気になる。バイクを盗む中高生が居るようだ。(華山、籠嶋)

・80代女性、一人暮らし。東灘区御影に居て被災(全壊)。仮設に2年居て、ここへ。インターホンで「今、煮物してますから・・・短時間なら、それでよいですか?」と言われ、玄関口で立ち話。小柄で痩せた方だが、お気持ちや表情・声は明るい。「いやもう、病院通いばかり。退院して2年になるんですけど!」と言われ、何と、食道○○という病気をもだと言う。「治る、というより、ゴハンが食べられない」「スープとか生野菜とか、ずーっとそういうもの(を食べている)」と話される。「昔から一人。ずーっと一人です。」「一人暮らしだし、なかなか家は当たらなかったけど、まあ、ここ(の暮らしは)よい。」お友達と出かけたりはなさらない

のですか？と聞くと、笑って、「いや、もう、友達と出かけるなんて！ 外食もでけへんし、退院したばかりだし。」「もう、いつお迎えが来るかわからんのに！」と、そう言われる割りには、言い方が明るい。病気のことは気にせず、毎日を過ごそうとしている。みんな、病気やと思えない、と言うけど……。球根でも買ってきて、育てて……。「4月まで生きられるかー（苦笑）、って思ってやってます。」「今つくってる煮物も、自分が食べれるように煮ているもの。（普通の煮方では）喉に通らへんし……。胃が3分の1ないですからね。」お腹にサツと手を当てて、「ここ切って、開いて手術した。」東京で30年勤め、定年になって出身の神戸に帰ってきた。「私は、ずーっと一人！ 我々の世代は、男の人が居ないんだから、戦争で……。」「との話。「私は8人兄弟で、男5人おって、そのうち、4人が戦争に連れて行かされた。まあ、無事帰って来ただけね。あんた、今の人は幸せやけどね！（笑） 私、若い頃、三ノ宮に勤めてたけどね、焼夷弾の中くぐったり、爆撃受れたり……。イヤヤわ、戦争は……。」（今のイラク戦争も）早よ終わってほしいわ。昔は、ネギ1本も買えなかったのよ！ 今は、みんないい思いしてるけど」と話された。お料理中だったので、このくらいで終わったが、とてもにこやかに、キチッとあいさつしていただいた。（坂本、小波本）

・70代女性、ご主人が入院中。長田区で被災。震災では家が半壊だったが、よその家に寄せてもらった。すでに糖尿病になっていたご主人が居たので、多くの人がぎゅうぎゅう詰めになっている体育館など（の避難所）には、よう避難できなかった、と話される。眠られているところだったらしく、インターホンを押してしばらくしてから、眠そうな表情で出てこられた。「足が痛うてな」と、膝を曲げて、ずるりと玄関先の地べたに座られる。中に入らせてもらい、玄関先で、目線の高さをあわせながら話す。部屋の中には、全くと言っていいほど、タンスやテーブルがなく、雑貨もいっさいなくて殺風景。「今、主人、病院に入っとして。療養中やし……。」「糖尿病があって、ずっと病院におられるそうです。「私も、足いとうて。私は、足と脳梗塞って言われて……。薬ようけもろてな。それ飲んだら、眠一てな。」「よそ行ったら（外出したら）しんどーて、しんどーて！ 次の日はな。だから、今日しんどいねん、昨日出かけたし……。」「週に1、2回は友人と板宿に出かけるとのこと。昨日は、それで友人と病院に行き、「ついでに寿司を食べたわ！」と話された。買い物は杖をついて（名谷などに）行く。荷物、背中にもって……。でも、たいへんやね。でね、よう財布落とすんよ！」と。昨日もおととも、財布を落として拾ってもらったり、フツと後ろを見たら落としていたりしたことを話される。鍵も一度なくしたし、定期も2回なくしたり、結局家にあったりしたことを話され、（もの忘れについて）少し心配になる。「娘は、名谷の南落合（の住宅）のところが当たって、そこに来てねんけど、向こうは便利が悪いらしい。換わりたいと言って、板宿に申し込んだら当たった。私も、できたら板宿に行きたい」。たいがい家に居て、寝るかテレビを観ていて、今は趣味もない。以前はカラオケにも行っただが、今は声も出ないので、やめている。大正琴があるが、しまってあると話される。「週に1～2回でも外に出かけているので、（それで）まあええわ！」と言われる。（ものを忘れがち、お一人暮らしなので、少し心配です。）（坂本・小波本）

・80代女性、仮設は、西神中央の春日台。「一人（暮らし）です。」「あの頃はね、付き合いよかったですけどね。ここでは、扉閉めたら、話できへんし。でも、よう、付き合いわしてもらってます。」歩くのは平気ですけどね、頭イタが1～2月、続いていたんです。でも、それが取れたから……。この、頭クラクラは、持病ですから。も一治らへんて言われた。デイサービスも、週2回行ってますし。（坂本、小波本）

・70代後半女性、被災当時から一人暮らし（市内に身内（子ども）が居て、今日も来ている）。長田区で被災。全壊で、火事にはならなかったので、「明日、荷物を取ろう」としていたら、当日の夕方に出火。地震の最中は、頭が真っ白、「何で止まらへんのやろ！」と、その時は思った。怖い思いすらしなかった。「丸焼け！　うちだけやないから、落ち込んでもしゃあない。」避難所は、神港。その後、西神第一の仮設へ。「ここが当たるまで、（仮設は）数ヶ月一人だったが、怖くも寂しくもなかった。根が呑気な方だからね。」ここには最初に入った方で、4年目になる。「今になって、やっと落ち着きました」と。「病気は、2つ3つあるよ。お医者さんと仲良し！　病気とうまく付き合いうこと」「もう、長生きしても、（病気で倒れて）人の世話になるのも仕方ないし・・・」と笑う。が、元気。ここに居る人は、80代でも元気な人が多い。「こんなところにおったら退屈やし、出られる時に何とかんと・・・」と、よく、友達と名谷に出かけ、遊んだり、ついで買いの買い物など。「私は、不良ババです！」。周りの条件は、今よりも仮設の時の方がよかった。「バスも電車も終点だったし」「買い物は、どうしても名谷まで出ないといけないのが不便。ローソンは、若い人には便利だけど・・・。生鮮食品の買えるスーパーが近くにほしい。」下りの坂道は、足に力がかかり、歩くのに負担がある。ここへ来て、敬老パスのありがたさがわからなかった。いつもバスを使うようになったから。震災前は、バスに乗る用事もなかったが・・・。長田区内のバス路線が不便になったのが、困っているのはみたい。ここでは、垂水方面へのバスが不便。名谷駅へは、充分ある。「入った時のことを思ったら、便利になりましたわ。」「外へ出て、人と話すようにしている。家で一人で居ると、何も考えないから・・・」（長船、佐藤、水野）

4月26日

・80代男性、一人暮らし。長田区で被災。6時間閉じ込められた。戦争にも遭い、背骨を爆弾でやられ入院した。19年前に妻が亡くなった。いつも孤独な思いで夜が怖い。昼間も寂しいのでよく出歩いて知り合いを回っている。部屋にいと牢屋に入っているみたいで孤独になり、身体がガタガタ震える。自殺しようとしてベランダに乗ったが隣の住人に止められた。（華山、近藤、籠島）

・40代女性。兵庫区で被災、全壊。近くの公園の集会所に避難し、その後は親類宅にお世話になった。抽選に当たりこの住宅には当初から入っている。ここは環境もよいし私は慣れました。前に住んでいたところは、国道2号線沿いで車もすごく空気が悪かった。都会の割には近くにスーパー等がなく、買い物などはバスで東須磨あたりまで出かけるので不便だった。不便さは今も同じ。しかし、月に2、3回は都会の空気を吸わないとね。バスの定期も買っている。三宮は楽しいが交通費がかかりすぎるのが悩みです。子どもの通学定期も月に5万円もかかりたいへんです。お茶を飲みに行ったり、ちょっと買い物に行ったりするのが楽しいが、交通費がかかると出る気をなくして引きこもってしまう。私の住んでいる部屋は日が当たらず、上の方の部屋やから出るのもおっくうになる。やっとこの間「しあわせの村」へ覚えていった。あそこはタダやから助かる。気分転換にもなる。でもバス代が250円もするんよね。（長船、坂本、佐沢）

5月10日

・70代男性。長田区で被災、全壊。妻は地震の時、柱に挟まれて亡くなった。私も地震で脊髄をやられ右肩に人工骨を入れていて、今も腕が上にあがらない。家の中に何ヶ所も手すりをつけている。ヘルパーさんに週に数回来てもらっている。身体は自由効かないが仕事の相談などを、今でも電話で対応している。私の家に人の来ない日はないねん、一度名前覚えたら絶対忘れへん、人を使おう思うたらそれくらいせなあかん。若い人はもっと本を読まないといけない。と元気な声のお話を伺う。最後にお話を聞くボランティアに「顔と顔を突き合わせる。これ心のスキンシップって言うねん」と喜んでおられた。(華山、長船、島原)

・60代男性。兵庫区で被災、全壊。2階で寝ていたが、ベッドが宙吊り状態になり、頭から落ちて脳内出血となった。そのため足が悪くなった。今も通院しているが全く直らない。以前は鳶の仕事をしていた。橋梁がドスンと落ち、足を怪我して入院したこともある。しばらくしてよくなって、職業安定所に行き警備の仕事を紹介されて、役所の人と一緒に行ったが断られた。そのため今は生活保護を受けている。「身体は元気な方がいいわ、やすんどってもしゃあない、車椅子貸してくれとるからいいが、今、3人のヘルパーさんに火、水、金と来てもらってんねん、一人やと寂しいわ」と玄関口でお話を伺う。(華山、長船、島原)

・70代男性、一人暮らし。中央区で被災、全壊。学校の避難所へ行ったが、もう人がいっぱい廊下しか空いていなかった。寒くて眠れなかった。配られてくる食べ物は始めパンだったがご飯の弁当になった。ご飯の弁当も遠くから来るので3日前のもので冷たく固かった。それでもお腹が空いているので食べた。地震の時は何が何だかわからなかった。隣にバラックが建っていなかったら家がペシャンコになっていたと思う。しばらくして隣の学校の避難所に空きができ、そこに移ってから寝られた。その後須磨区の仮設住宅へ入り3年以上辛抱した。この団地は仮設住宅の時、周りの人と一緒に申し込んだ。22300円の家賃だから公団より安い。震災前は文化のようなところに住んでいた。罹災証明をもらうのに長蛇の列ができ、寒い中長い時間待たされてたいへんだった。前の日から並んで待っている人もいた。役所の係の人は他府県から応援に来ていた人だった。書類がズサンで半壊と言われ腹が立ち怒った。地元の係が出てきてやっと全壊を承認された。仮設住宅に入ってから眼が悪くなり、新聞やテレビが見れなくなりラジオを聞く生活になった。20歳の時、愛媛県から仕事探しに神戸に来た。神戸には叔父さんがいてお世話になった。造船の関係の仕事で定年までした。眼が悪いのでヘルパーさんに買い物と食事に来てもらっている。デイサービスに週2回迎えに来てもらって行っている。この階の人も他に2名一緒に行っている。デイサービスでは風呂に入るのが一番の楽しみ。この団地の風呂に入ったことがない。眼が悪いので出歩けず、家にずっといるとボケてくるので団地の外のベランダまでは出るようにしている。垂水に兄夫婦がいて心配して時々来てくれる。家は全壊したが土地は残っているので工務店から「家を建ててあげる」と時々来る。家を建てる金がないからやっとなんかに入れた。「工事ボランティア」を名乗って材料費200万取って逃げた者を知っている。「ボランティア」を名乗る詐欺や、震災のドサクサに泥棒する人に腹が立っている。(華山、長船、島原、鹿島)

・50代女性。母親と2人暮らし。長田区で被災。震災の時、母は入院していて無事でしたが、痴呆が進み私の言うことがわからない。しかしトイレは自分で行くことはできます。地震のあと、九州熊本の親類に2年近くお世話になりました。神戸に戻って須磨区の仮設住宅に入居しました。この団地には5年前に入りました。父親は38年前に亡くなりました。母は83歳になります。

ここに入るまで3回も引っ越しし費用がかさみ、引っ越し貧乏になりました。今は医療費が月6千円もかかりたいへんです。(松下、矢野、籠島)

・80代男性、夫婦2人暮らし。須磨区で被災、全壊。地震の時、運良く無傷でした。神戸の2人の息子の家も無事でした。息子達は毎日来てくれてよくしてくれている。戦争中は中国にいた。あまり戦地には出なかったが足を痛めた。今、車椅子も使っているが最近は松葉杖で歩いています。なかなか思うように歩けず情けないと思っている。生活は年金を受け有難く暮らしています。(矢野、松下、籠島)

・80代男性、一人暮らし。長田区で被災、共同住宅に住んでいたが全壊した。震災前から一人暮らしで結婚はしたことがない。20年来一人暮らしを続けている。家族はみな亡くなっている。仮設住宅は3年半ポートアイランドで暮らした。戦争中は民間からの出兵でインドネシアにいて鉄砲もかつがされた。戦後の引揚げ後、すぐに貿易関係の会社に勤めた。しかし結核を患った。67歳の時、腎臓を患い医者からタバコをやめるように言われた。それ以来ずっと右眼が悪い。この団地はええところですよ。一人暮らしは気楽でええ。(矢野、籠島、松下)

・60代女性、夫婦2人暮らし。須磨区で被災、全壊。自宅兼店舗の2階に住んでいたが、つぶれてしまったので商売もできなくなった。家からものを取り出そうとしたが、家具が全部ダメになり置くところもないので、衣類しか持ち出せなかった。仕事も家もなくしストレスは大きかった。須磨区の仮設住宅で過ごした。震災後、ストレスの影響で夫の血圧が高くなり平成9年脳梗塞で須磨の病院へ入院した。今も電車とバスを乗り継いで通院している。足が悪いので長い間歩けず、言語にも障害が出ている。週2回の通院とデイサービスに週1回通っている。病院に行っても介護保険でもお金がかかり、年金だけの生活なので毎日たいへんです。この団地に入っても家具を買い直したりできなくて・・・2年前の生活とあまり変わらへんわな、やっとなやむようになったという感じで。「ふれあい喫茶」もなくなったし、行事も減った。もうそろそろ、えーまだ震災？って感じで・・・ボランティアも減っているし、いつまでも尾を引いているんじゃないかと困るけど、なにぶん年寄りなんで前へ向かれへんもので・・・何か催し物でもしてくれれば、みな出てきてくれるようにも思うけど、引きこもってしまっているのよ。(長船、東条)

・70代女性、夫婦2人暮らし。父の代から輸出関係の仕事をしていたが、震災で何もかも吹っ飛んだ。3年前、友人と共同で事務所を立ち上げたが、もう少しというところで主人が病気で倒れ入院した。またすべてを失った。2人の年金も銀行の担保に取られている。仮設住宅の時に生活支援金を借りまだ半分しか返せていない。このままだと生活支援金の小額返済すらできなくなる。主人の病気の世話をしていると仕事ができない。私達の老後はまだ先のこと、足元が片づかなければまだまだ老後に入れな。生きてゆくために、生まれてきてよかったと思えるまで死んではいけない。今、どんな仕事でもほしい、がんばる以外にない。(東条、佐沢)

・70代、女性。兵庫区で被災、半壊。須磨区の中学校へ避難した。避難所生活はトイレが辛かった。一番最後まで残り、須磨区の仮設住宅へ移った。この団地には孫と曾孫の3人で当たった。娘は兵庫区の自宅を修理して帰った。孫と曾孫の2人は出ていったので今は一人だがここに居られるだけでよい。仮設住宅の時も今も、周りの人との付き合いはない。やっとなやむのご主人の顔を覚えたが他の人の顔を覚えられない。地震の時ははじめ何やと思った。ガタガタ揺れて地震とわからなかった。友人が地震の時入口の戸を開けよと言っていたが正解だった。逃げ口の戸を怖いが開けた。身体がユラリ持ち上げられ、何回も揺れ戻しがあり怖かった。逃げる時、足をくねって骨折したのを今も引きずっている。ここに居ると話す人もなく鬱になる。元

の兵庫の家の方に戻って歩くだけでも気が安らぐ。週に数日兵庫に戻る日はサークル活動にも参加している。だから無料バス券はとても嬉しく助かっている、と何回も何回も繰り返して言われた。(東条、佐沢)

・80代、女性。夫婦2人暮らし。東灘区で被災。西区の仮設住宅に入った。足は悪くなったが、今まで医者にかかったことがない。よもぎが胃腸によく、毎日ゆでて焼いて食べている。身体は食べて直すのがよい。医者に行くと、余計悪くなったりする。血圧を計り、それを気にしてそこから病気になる。病は気からなる。スイカ、みかんの皮を乾燥させてワカメと混ぜるとおいしい。みかんは、長田に居る娘がたくさん送ってくれる。ゴミは極力減らしている。汁、皮等も捨てない。自然を大切にしないといけない。「若い人は、人のためより自分のために、自分の身内のために、行きなさい、何ごともほどほどにすること、神仏は人間だけかわいくない。」(松下、矢野、籠島)

5月24日

・60代男性。仕事が見つからず困っている。ハローワークに行っても見つからない。これから先がどうなるか見えない。(華山、矢野、長船)

70代男性。須磨区で被災。糖尿病、心臓の不整脈、アレルギー鼻炎、便秘、コレステロール高い。私は、震災直後入院(大腸ポリープ切開)で40日間入院。以後体調が悪く年齢も高いのでずっと病院通いで現在に至っておりますが、生活環境もよいので今の生活に満足しています。現在一人で大丈夫です。(本人記入)

・70代女性。須磨区で被災。地震の時、家は大丈夫だったが階段が落ちた。私は2階で寝ていたので大丈夫だったが隣の人は死ぬ直前で助けられた。異常な匂いがしていた。糖尿病で血糖値が高くなった。風邪をあまり引かないが昨年2度ひいてから血糖値が特に高くなった。それ以来なかなか下らない。プールにも週3、4回通い、夜は食事のあと散歩をしている。腹筋と背筋を10回毎晩している。それでも血糖値はなかなか下らない。もうええわと思うこともあるが子どもに迷惑かけたらあかんと思うと運動はせなあかんと思う。仮設住宅は炊事場が共同であったので弁当を買って食べた。野菜を多く食べ、肉はかしわだけ、コーヒーは砂糖を入れずに飲むようにしている。両親を小さい時に亡くし、一人で何でもせなあかんかった。一人で子ども3人を育てた。今までいろんな怖いめに遭ってきた。空襲、水害、高潮、震災と。昔は、働け働けの時代で働いてその分食べていた。その時は糖尿病なんか知らなかった。青春時代は戦争でなかった。戦争中は食べ物なかった。その反動で食べ物をたくさん食べるようになった。合併症が出ないようにしたい。運動は出来る限り続ける。元気に生きていくしかない。今日はこんなにたくさんしゃべってスッとした気分になった。(木原、西岡)

・70代女性、夫婦2人暮らし。長田区で被災、全壊。地震の時は有馬温泉にいた。電車が止まり、車で家まで送ってもらった。帰ってみると隣の家に押しつぶされて崩れていた。直後は滋賀県の親類にお世話になった。須磨区の仮設住宅に入り最後の方になってやっとこの団地に当たった。この団地は買い物に便利やけど近所付き合いがちょっとね。集会所の催しにも人が集まれへん。一人暮らしの人が多くてなかなか外に出へんし、女の人が多くて男の人が少ない。男の人は酒飲んで怖いからねえ。どうしても男の人とは付き合いにくい。若い人も一緒に住んでたら安心なんやけどね。上の階の人が死んでから2ヶ月経って見つかった。隣も空き部屋のままだになっている。押し売りや宗教の勧誘の電話が多いし私みたいな人は負けてしまう。高齢者が

多く何かあったら不安です。(華山、矢野、長船)

・60代男性。どういふことをしゃべったらよいかわからない。シルバーセンターにもコンタクトをとっているが、働くところがなく困っている。根本的な問題は経済問題やしねえ、お話を聞くだけでは前進がないからなあ。こちらから言うことは経済問題や。日本も外国も先が見えない。何かそれ以上のおみやげがほしいね。もうちょっと行政が動かないと、ボランティアの言うことを聞くのが先決や、行政が一からプロジェクトとしてやっていかな。(華山、矢野、長船)

6月14日

・60代男性、一人暮らし。訪問するなり突然「自分らエライな」と言われる。はじめは「震災のことは忘れたい」、「覚えてたら尾を引く、ジメジメする」、「ここで死んでいくんや」と否定的な発言ばかりをされていたが、次第に「教えられることは話すけど」と態度が柔らかくなっていくのが感じられた。ボランティアや自治会役員を経験。仮設や復興住宅についての知識が極めて豊富で、復興住宅では高齢者優先入居のツケで自治会役員のなり手がないということだった。住民に意識改革の気持ちが薄く、役員と住民の間に意識のずれがあったり、役員に対して何も言おうとしないことを嘆いておられた。週ボラに若い人が集まるのに「スゴイ」と言い感心して下さった。最後には「がんばって」と力強い励ましを頂いた。(谷川、華山、長船)

・60代男性、一人暮らし。大工をしていた。建築の仕事は厳しく、義理人情もないのが手抜き工事につながる。62歳で「明日から来んでよい」と言われてムチャ腹立った。健康が得られるため今も山登りが趣味。山のことや歴史にくわしい。六甲山を短時間で有馬方面に縦断するなど体力に自信があるが、体力低下するのが不安なためペースを落とすことができず、同年代の友人がなかなかできない。自分の身体を守るためには自分の考えで生きていき、人間不信になる。しゃべる相手がいないと一人暮らしは鬱病になってしまう。2〜3ヶ月後の孤独死が発見された部屋が再募集されていた。住宅に安全ボタンが必要だとの問題提起も。(足立、籠島、坂本)

・70代女性。灘区で被災。近所の人と病院に行ったが半日近くも待たされた。北区の仮設住宅を経てここ須磨区の復興住宅に入居しました。震災後眼を患い、転居で悪化しました。仮設住宅に移ってからは両目が悪くなった。杖を使うのも慣れないために壁を伝って歩いています。雨の日は滑ってしまうかもしれず怖いです。(原、原田、矢野)

6月28日

・70代女性、夫婦2人暮らし。須磨区で被災、明治時代に建てられた家は全壊した。借地でもあったので再建はあきらめた。避難所には入らずに息子の家に世話になった。西区の公営住宅の空家募集に申し込んだら、スッと1回で抽選に当たった。しかし、自治会が「被災者は老人会に入れ」と強要したため、自治会との折り合いが悪く居づらくなり、この団地に転居を申し込んだ。娘時代、私は昭和16年から24年まで北朝鮮にいた。敗戦により着の身着のまま逃げるように日本に帰った。夫は電気工事の仕事をしていたが昨年脳梗塞で入院したが今は元気。息子は3人いるが3人とも電気工事の仕事をしている。生活は年金暮らしだが私は今も病院で働いている。歯は自分のもので眼もよく腰も悪くない。家おったらあかんよ、足腰上がりの間は動かな。(籠島、塚本、矢野)

・50代男性、母と妹の3人暮らし。長田区で被災、全壊。須磨区の仮設住宅へ入った。この団地

には4回目の抽選に当たって入居した。父は2年前に亡くなり、母も身体が悪く医者进行を欠かせない。妹も喘息を患い入院を繰り返している。そのため精神的にも弱くなってきている。特に梅雨の時には湿気が喘息には悪く、さらに気持ちが落ち込み人との関係も難しくなっている。週に1回入浴サービスに来てもらっているが、人によっては受け入れられないので介護を受けるのもたいへんです。(塚本、籠島、矢野)

・60代女性、夫婦2人暮らし。長田区で被災、一戸建ての自宅が全壊、屋根がつぶれて下敷きになったが、かすり傷もなかった。地震はアツという間。時間はボーとしている。何が何やらアーという感じでした。近くの中学へ避難し、5月からありとあらゆる虫がいる東加古川の千戸もある仮設住宅へ移った。駅からは近くて便利だったが夏は暑くクーラー代が月14000円もかかった。8年間はわりと早く、知り合いが近くにいるこの復興住宅へ来た。ここはよいところ。夫妻お元気の様子でした。(佐沢、東條)

・60代女性から貴重なお話を伺う。90代の両親を通いでお世話している。震災の時北区から長田区へ救援に出た。全焼した両親の家で、仏壇の上に穴があき自力脱出した父に会う。母は入院中で無事。全壊した姉の家に行き、偶然前夜テーブルの下で寝てつぶれなかったと言う姉を救出。高層の親戚の家に向い、13階の階段にたどり着いた時、頭が真っ白になり、そのまま失神状態に。北区に戻り、ボンボン燃えている長田区とのあまりの違いにショック。その後ボランティア活動に参加、娘さんも自分でボランティア活動に参加する。周りで、自分の姉も含めて最近多くの方が亡くなっている。あの時は頑張った。しかし本人も気がつかずにごっついストレスがたまっていたのではないかと。50代、60代で次々亡くなっている。90代後半になると両親から冷たい麦茶を頂きながら、記載しきれない感無量のお話を多々伺う。(佐沢、東條)

・70代後半、女性、一人暮らし。長田で被災。近くの小学校から北区の仮設に入り自治会長を1年やった。自治会ではいろいろな問題があった。7人姉妹の長女でうち2人が震災に遭った。自分は娘の時に大阪で戦災に遭っている。50年前に夫を亡くしずっと一人暮らし。「震災頑張らにや、甘えてはダメ」と繰り返す。キチンとした人である。父は軍属で南へ行き、戦後になってからマラリヤで死んだ。母は4年前ショートステイで身体を悪くして入院後亡くなった。母には震災ショックがあったかもしれない。自分は正直すぎて、保証人になった金を支払っている、人は怖い、などの多くのお話は時間が足りず、電話番号を伺い後ろ髪を引かれながら辞去した。(佐沢、東條)

7月12日

・80代、男性。長田区で被災。焼け出された。3軒長屋、家がベッシャンコにつぶれた、奥さんは無事。何も持ち出せなかった。着の身着のまま娘のところに2週間いた。2時間後に火がまわった。消防が来ず水も出ず、ただ見てるしかできなかった。震災のこと話したら何時間でも足らへん。その後東加古川仮設住宅に入る。1000戸あって当時は役員をしていた。奥さんと2人暮らし。介護保険に入っておられ要支援。神戸老人大学の同窓会で幹事を14年努められ神戸市長から感謝状を頂いたと誇らしげに言う。その後相談役へ。老人大学は年寄りが金を使わなくて遊べるところと思っている。50代から様々な団体の役職についている。奄美大島生まれ。台湾戦争の前、小学生のうちに神戸にきた。敗戦時軍隊から帰る時に奄美大島を見た。軍では通信兵であった。奥さんの足が悪く医者に見てもらっている。趣味は身体を動かすことで弓道・

バトミントン・卓球をやっている。(長船、華山、村上)

・60代、女性。兵庫区上沢にて被災、全焼。最初の地震では大丈夫だったけど、火事で全焼。コロッケ屋してた。自営業だから本当に困った。火災保険かけてたけど、5%しかもらえなかった。地震保険をかけていなかった。地震が起きるなんて思わなかったから。避難先の体育館で肺炎になり1ヶ月入院。体育館では水が出なくて困ったが、ボランティアの人の協力により食料・水・衣類・の配給、顔見知りが多く心強い。元気。西神第7仮設住宅に長い間いた。はじめは怖いところだと聞いていた。避難所にいた時は「行きとうない」と思ったが、行ってよいところでもよかった。空気がよかった。のんびりしたところでもよかった。薬をもらえに月1回西神中央の高瀬クリニックになつかしい。夜は戸口の椅子に座ると見晴らしがよい。ここは気に入っていますわ。ええとこ当たってよかった。カラオケ大会、ショーとかあった暑かった。5000円で一泊旅行、バス内でカラオケした。これらが一番楽しかった思い出。今は買い物が便利(電車が近い)。まだ70になってないからバス代要ります。年金は下がるし。生活が難しいですね。平成10年8月入居。アツという間にすぎてしもた5年だったと。1.17から1円も収入がなく、蓄えを使い果たしても入ってこない。自営なのでサラリーマンのような援助はなかった、と「今は忙しい」おっしゃる中でのお話し伺い。(長船、華山、村上)

・女性。焼けてはいないけど全壊。仮設は東加古川。ここはいい。駅前で便利もよいし。仮設は暑〜て、もうすごかった。蚊が多くてね。仮設に入って3日目でムカデにかまれました。そういう意味ではここはまし。近所は仲がよい。田舎の人が多くて、「私、鹿児島」。隣とその隣も鹿児島。神戸の人とはつつきにくい。ブラインドを拾って夏は開けっ放し。泥棒が来ても盗むものないやろ。震災の時なんかは貴重品は備えとかなければいけない。お金すら何も持ち出せない人も水とか買いだめをしとかなないと。「明日の朝だけでええわ」ではダメ。地震の年に生まれた子(小3)が今来ている。(矢野、坂本)

・女性。アパートが全壊で。出なあかんから。ここ来て5年経つかな。借金だらけやわ。年金に入っていないからもらえない。家にじ〜っとしたら病気になるわ。足が悪いけど。(足はしっぽだらけ)。病院は元のところ(震災前まで通っていたところ)まで。こちら辺の人も行ってるんとかうんか。40〜50万もっていた人が20万へ、リストラへ…いろいろあるわ。(矢野、坂本)

・女性。仮設は総合運動公園の市の子公園でちょうど3年。子どもの事件が起きるたびに「子どもと言うのは大人の協力が必要、子どもの握の根は小さい時につんでおかなくては…」。子どもが子どもを生んでいる。平成11年に自治会ができたけど、問題が出てそれ以降したがる人はいない。元のところで住みたいが年金暮しで…。掃除に出なかった人へ罰金制度(1000円)を…そうもしないとなかなか出ない。(罰金を課しても)なかなか出さない人がいる。閉じこもっている人がいる。(道で)声をかけても知らんぷり。(無視する人は)女性の人が多い。電車の中で女子高校生はマナーが悪いね。男性の方がいいね。女性専用車について周りみんな怒っている。態度が大きくなってしまう。高齢の人が乗れない。私は乗らない。あれは考えもの。恵まれすぎ。(矢野、坂本)

・男性。全壊。自分は自力で、家内は助けられた。(当時は)ボランティアが全国からきて、日本も捨てたもんじゃない(と思った)。3月までは避難所だったか仮設に一番に当たった。3年いた。ここに来て4年。中央幹線の近くにいて車の振動で悩んだ。仮設の時は蚊が多くて…ここは静かだし7Fなので蚊もまず来ない。買い物は便利。垂水のあそこは見たけどあかん。ここ

から出る気はない。隣の人とは、長田の時隣同士だった。震災前から高血圧・腎臓病と持病がある。75歳からインターネットをしている。シルバーの個人授業を受けている。(矢野、坂本)
・女性。別に変わったことはないが、足が悪くて、買い物は杖をつけて、言っている。家の中はきっちりとできませんが、ぼちぼちやっています。お世話になることはないですけど。荒井(高砂市)の仮設住宅にいた。電車で6:05発の電車で40分かけて神戸まで通った。立ち仕事で足を悪くなってしまった。買い物の荷物が重い時は椅子に置いて。主人は脳梗塞で今も後遺症で左手が動かない。主人は若い頃からタバコを吸っていたが、吸わなくなって1年経つ。(矢野、坂本)

7月26日

・60代女性。「たいへんやねえ、暑いのに」と気遣ってくださった。灘から鷹取(長田区)に引っ越して5年目に被災。震災後の後片付けがたいへんだった。避難所ではプールの水や荷物などを運んだ。垂水区の仮設住宅を経て入居。鉄工所で材料を台の上に置く作業など、重い荷物を運ぶ仕事をしていた。その会社も2年前に倒産。在職中こらえていた膝の痛みは、辞めてから急に悪化し、2ヶ月前には歩けなくなるほどに。膝に水がたまる。シルバー人材センターで仕事を探しており、「膝が治ったら働きたい」とのこと。じっとしているのがいやだが、無理をしたら釘で刺されたような痛みが走る。近くの道は、夏休みの夜中になると暴走族が走るのうるさい。でも緑が多いのがいい、眺めているとすっきりする。明石海峡大橋も見える。階段脇で見える、ヤフーBBスタジアムでのオリックスの試合の時に上がりる花火が綺麗だった。(華山、矢野)

・60代女性。兵庫区で被災、全壊。いったんはインターホン越しに「結構です」と言われたが、お話し伺いさせてくださった。避難所を経て半壊の妹さん宅に1ヶ月身を寄せ、賃貸住宅に移り半年過ごした。ここでは孤独さと心細さを感じる。夜が怖い。鍵をドアの鍵穴に差したままに置いて、少ししたらなくなっていたことがあり、また夜中風もないのにドアをカチャガチャ鳴らされたりしたので、鍵を取り替えた。隣の人とはあいさつ程度の付き合いで頼りにはしていない。無言電話やセールスが多い。膝が痛い、たまにアルバイトに行く。湊川に姉がいるのでよく行く、できれば兵庫区に帰りたい。(華山、矢野)

・70代女性、夫婦2人暮らし。長田区で被災。南落合の仮設住宅で3~4年過ごしたあと、2・3回目の応募でここに入居。白内障で通院しているが、生活にはとくに支障ない。風通しもよく、冬も暖かで過ごしやすい。(瀬尾、谷川、原)

・70代男性。九州から神戸にやってきて港湾荷役の仕事に就く。家族を呼び寄せて住んだ長田区で被災。須磨区の仮設住宅に入居。酒が好きで、若い時には1日に焼酎1升飲んだが、今では晩酌に少し飲む程度。同世代の人もあるので、近所付き合いはある。そんなに寂しいと思ったことはない。(瀬尾、谷川、原)

・70代男性、夫婦2人暮らし。以前タクシー運転手を25年していた。最近も車の運転は時々するがしんどい。ちょっと元気がなさそうな印象を受けた。(瀬尾、谷川、原)

・70代男性、夫婦2人暮らし。自治会長や老人会長を努めたが、「みな自分のことばかり考えとる」「被災者であることを忘れとる」ので気力をなくし、今はすべてやめた。毎朝散歩を欠かさず、数キロ離れた娘さん宅方面へ自転車で行くなど、いたって元気だ。高血圧には注意している。16歳の時から酒とタバコをたしなんできたが、酒はかなり以前にやめ、今ある銘柄はす

べて吸ったというタバコも、今回の値上げを機会にやめた。これまで取り組んできた被災者運動や、神戸をめぐる政治情勢などについて、熱をこめて語ってくださった。(瀬尾、谷川、原)

8月9日

・60代女性、一人暮らし。見るからにしんどそうで杖を使っておられたので、こちらからの申し出により部屋の中にてお伺い。足が悪く身体障害者の指定を受けている。正座できない。倒れてしまい、4ヶ月も入院していた。1週間前退院。仮設は花山の団地(北区)→西神第7住宅へ。買い物が困る。買い物が一番不便。こうなって(足を悪くして)10分足らずだったのが倍以上かかる。介護保険もまだ受けられず、買い物しても重たくて持って行けない。コープの戸別配達に申し込んだが(一応こちらからチラシを配布)、8月末からでないと使えない。痛み止めの薬を服用。歩いたら痛い。でも仕方ない。時間が経てば止まるかも。主人も10年前から身体障害者で面倒を見ていたが、今は専用の施設に預けている。中央市民病院に勤務している娘さんが連絡している。最上階なのでゴミ出しがたいへん。2台のタンスを動かすボランティアがあれば(要連絡)。入院した時は、周りの人に何も言わなかったもので、周囲の人に「死んだんとかやうか」と思われた。4月に「鬱」になり、近所の人と会いたくなく、しゃべりたくないことがあった。自分自身死ぬことしか考えられなかったことも。10年間夫の面倒を見て精神的に切羽詰っていた。そういう状態が1ヶ月も…近所の人と話しても、一人になると急に…役所の人に「ご主人よりあなたが心配だわ」と言われる。今も市民病院の精神科に通院している。主人に相談しても聞き入れる人ではなく、自分勝手に、自分で言なかった。(今年の)2、3月頃がピークであった。夜に夫に起されるのではないかと思いがしたり、夕方頃から晩が近づくにつれて怖いという思いがしたりする。周囲の友達ともそういう話はせずに相手の話を聞く程度。(病院に勤めている娘にもそういうことはわかっていなかったと思う。本気に思ってくれなかった。ただ今となっては過去の話。だから話せるのではないですか。(矢野、佐藤)

・20代、男性。震災で長田の小学校で2、3ヶ月ほど避難。重工業で働いているが、あまりええ話は聞かんなあ。今日は昼まで休んでました。今は住みやすいですよ。まあまあ。(家族の方と思われる5人の方が来訪されたのでその時点で打ち切り。)(ボランティアではなく、何かのアンケートだと勘違いされているようだ。ただ淡々と話されておられました。)(矢野、佐藤)

・女性、一人暮らし。持病で掃除に出られない。ここの前はワンルームだそう。震災が原因でここにきた人ばかりではない。むなしさを感じられるようだ。堂々と生きたいと思う。現代でこんな声が聞けるとは思わなかった。いや現代のこのご時世だからこそだろうか。震災は一部損壊だけ。雨漏りがひどくて。よその県から来たんでしょう。修理下手な業者が来てね。お金使って人が困った時にそんなことしよう人もいるんやなって、寂しい思いしたね。こっから連絡してもつながらなかった。遠慮しなくてよいよ。主人と離婚したんで、それで生活しているんですけども。身体ちょっと持病があるんで仕事ができなくて。年は若いかもしれんけど体力がないのよ。持久力がない。通院してる、自律神経の。両隣に話したプライベートなことが全然関係のない棟の人に知れてたり。月1回掃除があるわけよ。隣の人とは付き合いわないのよ。外で会っても。何やかんや気まずいことあったら困るしと思ったりもした。田舎(九州)で育ってきた環境が拭えないって言うのかな。ヘルニアがひどくて…今ましになってるけど。人生っていろいろあるわ。生きる限り頭ぶつかることばかり!田舎にはも両親はいないから帰ることはなく家はそのまま空家。(坂本、松本、籠島)

・前にお会いした(02/11/18?)。身体は動き辛そう(出てくるのに時間がかかった)。身体が震えていた。話が聞き取りづらかった。家族は何人かはわからなかったが、もしならきついだろうなあ。車椅子。(坂本、松本、籠島)

・仮設ではない。生きるためには人生いろいろあるけどさー、ここに入れたことは感謝してるけどさ、亡くなった人もいるんだから。そんなこと考えたら贅沢言われへん。震災の年に主人が亡くなった。震災のショック→糖尿病で死去。続いてるわけよ。ショックが…こつこつ働いてたのに。全壊ならパーよ…住んで4年になるが、未だにどこにどの人がいるかわからん。(あいさつしても)返事せん人もいる。仮設ひとくくりで入っている人もいて、それなら関係もあるけどこういう老人階は1ヶ月にいつべんの掃除ぐらいであうくらい。役所の人が月1回来るけど誰も相談する人おらへん。無断で猫飼ったり餌やったりする人がいて困る。結局…言うても直らんのかな。仮設から来てるから捨てられずに飼ってる。私も18年間飼ってからわかるよ。かわいいのは。だけど人に迷惑かけたらあかんのちゃう。どーしよーもないね。ここは2Fやから上がりやすいからノラ犬4匹連れて歩いている人いるよ。私も役員おりたから何やけど注意してほしいわ。会長もいるし役員もいるんだから。共同生活ということが頭にないんちゃう?

(ノリのいい人だった。いろいろなお話しが聞けた。話すのも聞くのも話すのも好きだと思う)
(坂本、松本、籠島)

・30代男性、一人暮らし。長田区で被災、全焼。仮設は北区鹿の子台。震災の時は独身。家族2人。被災当初は奥さんと同棲していたが別居中。身体の調子が悪い。仮設の時に身体を壊して仕事ができない。大工をしていた。神経系を痛めている。薬で抑えている。病院へ行っている。無理をしてはいけない。生活保護を受けている。皆さんがいい人ばかり。新しい病院を紹介してもらった。親切な人多い。(長船、華山)

・70代女性、一人暮らし。灘区で被災。(我々を)変な人と間違えた。暴力団とかまで近くに来たりして。インターホンではわからなかった。耳が聞こえてねえ。元気にしてますけどね。東加古川仮設より入居。加古川に息子がいたから。でも息子に迷惑をかけないよう公営に入った。ええとこ当たってよかった。被災当時の知り合いがいらないのが辛い。散々バラバラになってしまった。加古川生まれで加古川は知っているけど、灘区は40年以上いて友人もたくさんできた。西へ来たのははじめて。夫は平成11年肺気腫で死去。長男が身の回りを手伝ってくれる。こないところ入れてくれたんやから、みんな仲よせなあかな思うて。みな辛い目におうてきたんやから。毎日少しずつでも歩くようにしています。じっとしているとお腹が空かないので買い物を少しずつしています。みんなで仲良くしていこう、あいさつしていこう。これくらいしかできないけれども宿命で入ったのだから。もう少し言いたいことがあったらよろしいねんけどね。(華山、長船)

・西神16仮設にて2回訪問済み。覚えておられた。その時はクーラーの掃除をしました。当時はまさかあんな山奥にと思った。ここにきて4回手術。退院直後。震災前から飼っていた猫が今も元気になっている。足は痛いですが仮設では手術したくない。と当時訴えておられた。「何気なしに覚えておられますよね。人間は」と。駅が近いので仮設に比べて助かる。ニュースとかで当ボランティアとかは見えて、知っておられた。5年で終わると思っていた。来てくれて嬉しかった。今もみんなにお世話になってるんです(楽しそうに話す)。今でも仮設の人と電話したり名谷(須磨区・垂水区)で会ったりでここは便利いいなど。誰かが声をかけてくれるのが嬉しい。ここを選んでよかった。駐車場のコインだけが煩わしい。

8月23日

・70代男性。須磨区で被災。入居後至極元気に生活を営んでおります。当号棟の方々は本当によい人達で、草木の手入れ等いろいろ世話を頂き、気持ちよく毎日を過ごしております。週末ボランティアの方々には感謝しております。これからも身体に気をつけて、楽しい日々を感謝と共に暮らしてゆこうと思います。有難う御座居ます。(本人記入。猪上、華山、松本)

・80代女性。長田区で被災。滝川中学校へ避難、西神の仮設住宅で4年2ヶ月過ごし、ここへ入居。仮設住宅にいた時、クーラーをつけすぎて冷房病になった。ここにきてからは冷房は入れられない。訪問した時たまたま在宅していたが、普段は運動するよう心がけているので外出している。阪神水害も経験。かつては畳を作る仕事をしていて、今は年金暮らし。生活苦に泣いたこともあったが、民生委員に頼るのは情けないと思い、働きに働いてきた。おかげで子どももしっかり育ってくれた。今では子どもや孫がたくさんいる。大正から平成までを振り返って「日本はこれでええんやろかって思っています」とのこと。また、働くことの尊さや働けることのありがたさなどを語ってくださり、「生きていくには自分がしっかりしないと…」と、筋が一本通っているなどと思った。(猪上、華山、松本)

・70代女性。70～80代の3人で暮らす。「家内一同元気にしております。特に心配等ありませんのでよろしく。(本人記入)」とのことだがお話し伺いさせていただいた。須磨区で被災、家は全壊。98歳の姑さんがいたため市営住宅に入居、姑さんが亡くなられたあと、改めて申し込んで今の住宅に移る。「よい住宅に住まわせてもらった」と感謝している。(東條、佐沢)

・母娘(姉妹)3人暮らし。入浴中だったため時間を改めて再訪問。須磨区で被災、自宅は全焼。親戚宅や妹さんが勤める会社の社宅に住んだ。妹さんの勤め帰りが遅く、近所付き合いがない。自宅あとには今何も建っていないようだが、近くに市営住宅ができたらしい。(籠島、坂本)

・70代男性。兵庫区で被災、自宅は全壊、西神の仮設住宅へ。1939(昭和14)年に満州に渡り、戦後は5年間シベリヤに抑留された。内モンゴルの農業大学を出ていたことから、農業技術の知識を買われ、抑留中の待遇は過酷なものではなかった。戦後は農業指導の講師をした。アルバイトのような仕事であったため、年金はあまり出ない。引揚船の中で引揚者間の対立をおさめたり、仮設住宅の自治会役員をしていた時4回も住民を旅行に連れて行くなど、統率力を発揮されたとのことのお話を伺う。(籠島、坂本)

・60代?男性。長田区の長田神社近くで被災。灘区の仮設住宅を経てここに入居。はじめ、地震に関しては「いつまでも引きずるのは何かと…」とあまり話したがらなかったが、次第に被災時の状況などを話してくださった。兄弟が今も長田区にいる。難病を抱えているが生活に特に問題はない。(木下、原、上野)

・70代男性。兵庫区で被災。戦災とあわせて今までに2度兵庫区で家を焼かれた。妹さん宅、息子さん宅での避難生活を経て、西神の仮設住宅に。ここには5年前の8月15日に入居。「(震災)当時は悔しかったけど、今はさっぱりしてよかったわ」と言われる。パチンコ・社交ダンスなど多彩な趣味をもて、奥さんもまた別の趣味をもっている。午前中は趣味のサークルに行くことが多い。もともと酒をたしなんでいたが、震災後は夜だけでなく昼も半分ヤケで飲むようになった。(木下、原、上野)

・60代女性。長田区で被災、西神の仮設住宅を経て、何度か応募してやっと当たったここに入居。長崎県出身で関西には約40年在住。子どもは西区の仮設住宅から北区の高校まで通った。

今は病院に勤めているので心強い。障害者の夫は施設にいる。その介護に疲れ鬱病になり、自殺を考えたこともあった。かかった医者「死なんといてな」と言われて気が軽くなった。転倒して足を怪我した時の痛みが激しく、それどころでなくなり、鬱が吹き飛ばされた感じになった。屋内外共に杖をついて歩く。以前は駅前まで買い物に行っていたが、今はコープの宅配サービスを利用している。依頼された家具の移動をお手伝いしながらお話を伺った。(木下、原、上野)

9月13日

(site: www.weekend-kobe.jp からデータ消失)

9月27日

(site: www.weekend-kobe.jp からデータ消失)

10月11日

・60代男性、一人暮らし。長田区で被災。地震で周辺建物は倒壊した。横倒しになった建物から9名ほどを救出した。壊れた幼稚園の建物から園長を助け出したがすでに亡くなっていた。自宅のマンションは鉄筋だったので倒壊しなかったが、周辺は古い木造の家が多く倒壊した。被災当時、寝るところがなく公園にテントを張って寝ていたが盗難などに悩まされた。あと自衛隊がしっかりしたテントを提供してくれてそれから安心して寝れた。震災前までは大阪空港のパイロットだった。震災直後、交通事情が悪く通勤がたいへんだった。その後、脳内出血で左半身不随になり車椅子生活になった。リハビリで3年前に話しができるようになった。リハビリで、自分と同じようになった人や震災で悪くなった人や脳の病気で悪くなった人を多く知った。神戸空港は自分のパイロットの経験から、安全を確保するために発着数を減らさなければ飛行機は飛ばせない。神戸市の計画には無理があり、今止めないと大きな市民の負担になる。

(人の面倒見がよく、声をよくかけられる。週末ボランティアの訪問活動にも、自分の部屋の使用提供を言われた。)(増田、東條)

・80代女性、一人暮らし。灘区で被災、全壊。灘区の仮設住宅にこの団地に入るまで住んだ。震災前から一人暮らし。公害が原因で喉の具合が悪く公害年金を受けている。近所付き合いはあまりなく近所の人の顔をよく覚えられない。ガス漏れをした時、音声しか出ないのでどうしてよいかわからず、誰も来てくれないので怖かった。ただ家の近くウロウロするだけだった。(増田、籠嶋)

・70代男性。一人暮らし。しんどいから話しはできへん。1年前からペースメーカーを入れている。お腹も手術した。ここは一人の人が多く、他にもたいへんな人多い。そう言いながらペースメーカーを入れている胸やお腹縦10センチの手術あとを見せていただいた。急に具合が悪くなった時は、身内が駆け付けてくれるから心配せんでよい、と言われた。(籠嶋、鹿島)

・70代男性。夫妻2人暮らし。中央区で被災、全壊。住んでいたアパートは傾いた程度だったが、何故か全壊の判定を受けた。観光名所にあるアパートだったので早く壊して立ち退かされたように思う。眺めがよく長く親しんだ住まいだったが、住めないのであきらめた。仮設住宅には入らず、塩屋のアパートを借りて住んでいた。妻は今、身体の具合が悪くて寝ている。私は足の膝が少し悪いだけで身体は悪いところはない。今元気なのは若い頃の軍隊経験があるからと

思っている。軍隊へは志願して入った。志願兵は出世が早くあまり殴られずに済んだ。中国の南方に配属された。人を撃ったこともある。撃たなければやられるから。それが戦争だ。戦争は本当に怖い。戦争はしないようにしないと。戦争が終わったらすぐに帰れると思ったが1年中国に抑留された。南方でよかった。北方だったらシベリヤ抑留で帰れなかったかもしれない。この団地にはようやく慣れた。いろいろあったがやっと乗り越えた。買い物は自転車で行く。市場は遠いので団地のスーパーで済ますことが多い。10歳は若く見える、奥さん思いのご主人にお出掛け寸前の戸口で伺う。(籠嶋、鹿島)

・70代男性。夫婦2人暮らし。2年前、NHKの取材に応じていただいた。震災ショックで生きる意欲を失っていたが、人の世話をする活動を通じて元気を取り戻した。当初から自治会の立ち上げに積極的にに関わり、今も重要な役割を担ってる。8年経って住民の高齢化が進み、にもかかわらずコミュニティが思うほど進まない現状に心配と悩みが絶えないと苦労話を伺う。給食サービスでコミュニティを進めるが世話人が不足している。一人暮らしの閉じこもりが今も多い。昼間はLSAの人がいるがよるは何かあると私のところへ電話がかかる。時が経てば住民の生活が良くなるわけではない。今のところ孤独死が出ていないがこれからも心配です。住民から頼られる自治会役員として日々奮闘するお話を伺った。(籠嶋、鹿島)

10月25日

・60代女性、一人暮らし。灘区にてお好み焼き店をしていたが、震災により全焼。10円も持ち出せず、全財産がパーや!! 2階から飛び降りヘルニアを患う。100kgの和筆筒が倒れたが、何故かその前の仏様にもたれかかっていた。全焼しさらに延焼するもガレージが食い止める。その後11日間風呂に入らず。仮設住宅は王子動物園近くで4年半、最後まで取り残された。震災のニュース見るのもいややねん!! 東遊園地での(1/17の)イベント行きたい。気持ちはわかるが思い出してしまう。死んどったらよかったと思うわ。ノイローゼになる。それ以降すぐに出れるために、服を着たまま寝る。懐中電灯は常備。リュックサックに入れています。仕事4時間ぐらいでも行きたいが、痛くてできない。生活保護で7万ぐらいしかもらえず、食うだけや。7万なんぼで生活できるか!1日2000円や!今着ているのももらいものでチンチクリンや。こんなしんどい目に遭うんやったら死んだ方がましや。何の楽しみもない…。自分の国もできんくせによその国を出して!! 9年も経って… 乞食のかっこうや! 今タバコ吸っているが、タバコ吸うと700円/日で生活しなければならない。日本の政治家何しとんねん!!! 外国にはええかっこしよって!! 金・米をやりよって! 国に対して腹が立つ。誰が総理でも一緒や! 1日に1000円も使われへんような生活いやや! ノイローゼの時、何百回自殺しようとしたか。死んどったらよかったとズツと思っている。最後は固く握手して分かれました。(東條、森井、矢野)

・70代女性、妹さんと2人暮らし。(インターホンを押して2分ぐらい経って出てこられる。最初は顔だけを出される程度で何度も話しが終わりそうになったが約45分間続いた。また話しが進むにつれて本人様がどんどん玄関から前に出て話しをされていたのが印象的であった)。身体悪くてね。せつかく来てもらったけど立ってられない。60代から腰が痛い。関節リウマチ。白内障。65までは元気やったが。地震は怖かったなあ、覚えておきたくない、聞かれると思ひ出されてしまう。はよ一死にたいわーと思う時がある。家は全壊、仮設はポートアイランド。市民病院で手術し、目から目やにが出て気持ち悪い。ただ目はよく、予告シートの小さな字も読めた。小説をよく読んでいます。また近くをよく歩くようにしている。当時は自分のことで精一

杯で他人のことは覚えてないし、今もとなりの人のことを聞いても知らない。あと何年生きられるか分かれへんけど、自分の好きなように生きたい。電話番号を聞いたところ、本人が知らないと言うのが少し気になった。(東條、森井、矢野)

・70代(妻)・80代(夫)。灘区で被災、全壊。エライ目に遭った震災だが、空襲の時の方がたいへんだった。大空襲と過去の東海・南海地震で犠牲になり、数年には福井地震でも大被害に。南海地震は、ちょうど親戚が高知県に住んでいた。やっぱり阪神大震災よりも空襲の爆弾がはるかに怖かった。震災時は暑いのでお布団を蹴飛ばして天井見てたら家が「ガター」いうて縦に揺れ、思わず孫を羽交い締めにして布団に包まったが2階の床が落ちて動けず、明るくなるのをじっと待った。玄関のガラスを割ってもらって助けられ、外へ出てビックリ。3日間着の身着のままどないして過ごしたか記憶にないんですよ。ラジオで「星影のワルツ」が急にかかって、この世に音楽があったのかと初めて思った。それからなんか生き返ったようになった。車を出して高知へ10時間走った。終戦の年、神戸は全部焼けてしまっていた。13歳だった私は月の光を見ながら泣きたいだけ泣いた。兄貴が戦死したこともあって死にたい死にたいと思っていた。友達に「あんた、死にたい思うんやったら、やること全部やって死んだらどうや？やりたいことやらな！」と言われてがんばってみることにした。今の若い人に言いたいこと。ハングリー精神で日本の将来のためにがんばってください。わがまま言ってもダメ。だができればもっと早く戦争止めてほしかった。父も日露戦で犠牲に。今度起きる大地震では死んでもよいと思う。書き尽くせないお話しの2時間をアツという間に過ごした。(佐沢、塚元、猪上)

・70代男性、一人暮らし。幸せすぎると、かえって人生がつまらない、と言われる。連絡手段は手紙しかない。酒屋ずーっとまわると時間が刻々と過ぎる。夜中に酒で目が覚めるくせが出ている。せっかくどっさり買った野菜・材料だが、飯はなかなか食えず、ほかすことが多い。もちろんカレーも漬物も一人で全然食えないと言う。一人暮らし、しかも永年、だからあとは死ぬのを待つだけ。この住宅ができてすぐに入居。今回の震災で何もかもを失った。もう今は寝て、暮らすのみ。宗教団体の勧誘多し。浄水器の探査も。早起き会に行けない。今は無職で年金生活。ビール毎日飲めて幸せ。もう身体壊してもいい。よく居酒屋へ行くタイプ。近所の方と会るのが苦手。お茶と酒はきらしてはダメ。あまり飯も食えない。しかも1日を通じて米1合もとっていない。3、4人友達が来る。酒を飲み終えて、横になって、しかも電気を消さずにそのまま目が覚めると朝というくせが。タバコを一度吸えばやみつきになって、止まらないと言う。(佐沢、塚元、猪上)

・60代女性、夫さんと2人とワンちゃん。中央区で被災、宮本小学校近くの家は半壊。89歳の姑さん面倒見ている。仮設に藤原台(北区)・岩屋(灘区)と移動した。買い物が不便で日曜日に買い物。50歳の時に喘息になった。旦那さんも喘息になった。仕事がない。(華山、籠島)

・80代女性、一人暮らし。灘区春日野道で被災。仮設はポートアイランド。身内は近くに住んでいる。大阪に住んでいた息子さんが亡くなった。ここに来てから喘息になった。病院に行っている。バスでダイエーへ週2・3回。午前に行くバスが1時間に1本。生活保護を受けている。(華山、籠島)

11月8日

・70代女性、一人暮らし。仮設住宅は西区。最近高血圧気味で通院がしんどい。ヘルパーさんに週一度来てもらっている。週2回来ていただくこともできるが1回にしている。通院の付き添い

や掃除などしていただいているが気を使ってしまい、あまりいろいろ頼めない。住みにくい世の中になった。今の政治は無茶苦茶や。疲れた様子で横になって話されることが多かった。(赤西、10.26再訪問)

・60代女性、ご主人は70代、2人暮らし。兵庫区で被災。震災時近所は火事になった。近くの団地に住む息子が駆け付けてくれた。幸い息子の家に被害はなかった。ポートアイランドの仮設住宅に入るまで、福岡に住む長男の家に世話になったり次男の家に世話になったりした。子ども達は世帯をもっているので長く世話になることに気を使った。仮設住宅の生活は、暑くてギシギシ音を立てるし隣の物音が聞こえるなどプライバシーが守れない生活なので辛かった。今は2人とも元気で安心して生活ができ、ここに入れて有難く思っている。この棟には自治会がなく不便を感じているが、他の棟の自治会に入れてもらって近所の人達とのコミュニケーションを図り、付き合いも多く楽しく暮らしている。特に問題がなく今の生活に満足の様子でしたが、私達の訪問に感謝していただいた。(山口、鹿島)

・60代男性、一人暮らし。灘区で被災。昨年不整脈で立ちくらみを起し、救急車で労災病院へ入院。7日間入院したあと2ヶ月通院。山口県の妹が心配して来てくれた。9万円の年金生活では医療費3割負担はキツイ。人間どこまで耐えられるか。ポートアイランドの仮設住宅に4年半、最後までいた。同居の女性を2年前にガンで亡くし今は一人暮らし。「この年になれば、人と人が支えあうことの大切さがいやでも見えてくる」と言われた言葉が印象に残った。(原、華山)

・60代男性、一人暮らし。兵庫区で被災。突然の病気で右腕と両足が麻痺になり、今年の4月から車椅子生活になった。「人間って何が起きるか、わからん。自分でできることはなるべく自分でやる」とヘルパーさんは呼ばずに一人で生活をされている。買い物は、坂が多くて不便だが自分でしている。寝る時は左腕しか使えないので一苦労する。毎日、やることがないので酒ばかり飲んでいる。故郷は和歌山県だが、横浜などあちこちを転々として神戸に来た。震災で神戸の街は変わってしまった。この8年間で総理大臣が5人入れ替わったがその間に生活が低下した。特に消費税が痛い。街には障害者が多い。工事でうるさい。冷暖房は使ったことはない。生活の荒廃の反面、気力の強さが声から感じられた。(原、華山)

11月22日

・60代女性、一人暮らし。中央区で被災、全壊。ご主人は2年前、脳出血で入院し病院で亡くなられた。震災直後は親類宅に世話になった。その後は仮設住宅には入らず、一般の民間住宅を借りて住んだ。生活は年金でしのいでいるが、私のことより子どもの将来の方が、年金がもらえるのか心配です。一人で家にいると暗くなるのでよく出かけるようにしている。実家は教会で、宗教が私の精神的な支えになって自立心ができていると思う。毎朝団地の体操に2ヶ所参加している。バスに乗らずに歩くように心がけている。バスは遠回りして時間がかかりすぎるせいもある。この団地の私の部屋は障害者用対策になっていて、部屋で倒れたら消防署に連絡が入るようになっている。今はまだ必要無いが将来安心です。震災直後は枕許に震災グッズを置いて寝ていたが今はしなくなった。一人暮らしの不安を感じさせない元気印いっぱいのお話を伺う。(奥村、鹿島)

・80代女性、一人暮らし。灘区で被災、全壊。2階建てのアパートに住んでいて地震で1階が倒壊した。幸い私は2階に住んでいて無事だったが、1階の住人はあとから助け出された。六甲アイランドの仮設住宅に入った。そこで鬱病になり一時入院した。75歳まで働いた。65歳ぐらいか

ら足が悪くなり歩くのが困難になった。要支援1級の認定を受けている。ヘルパーさんに週一度掃除に来てもらっている。両親は徳島県出身で長田に移り住みそこで震災に遭った。戦死した弟は骨すら戻らなかった。仮設住宅で世話になったボランティアが今も訪ねてきてくれる。この団地で知り合いも増え楽しく暮らしている。(奥村、鹿島)

・66歳男性。夫婦2人暮らし。東灘で被災、全焼。商店街に住んでいた。当時取材が多くあった。震災までは客も多くあったが今は少なくなった。震災直後、高松の公営住宅へ入った。救援物資は全く来なかった。まるで島流しにあったように思った。100世帯ぐらい移り住み、今も30世帯ぐらいまだいる。この団地はシルバー住宅でトイレの水を12時間使わなかったらLSAからガードマンが駆け付けてくれるようになっているが、以前に24時間警報装置が鳴りっぱなしだったことがあった。(矢野、華山)

12月13日

(メモ作成せず)

12月27日

(メモ作成せず)